

算数科教育 実技・理論 研修会 終了報告

テーマ	数学的な見方・考え方を働かせて学ぶ子の育成 ～数学的活動の充実を通して～	
日 時	令和3年8月23日(月)	
会 場	Zoom によるリモート研修会（研修場所：各所属校）	
講 師	加固 希支男 氏(肩書:東京学芸大学附属 小金井小学校 教諭)	
参加者	46名	
研修会 の 様 子	 講師紹介 加固 希支男 (かこ きしお) 東京学芸大学附属 小金井小 教諭 1978年東京都生まれ。 立教大学経済学部経済学科を卒業し、 2007年まで一般企業での勤務を経験。 2008年から都内の公立小学校勤務を経て、 2013年より現任校で教鞭をとる。	【事前収録された授業動画の視聴】 6 年「拡大図と縮図」の学習。事前に収録していただいた授業動画を、加固先生が直接解説を加えながら、参加者それぞれが勤務校にて視聴しました。 自力解決の場面で加固先生が大切にしていることは、「まず周りの子としゃべろう」ということだそうです。学級経営上でも、誰とでも関わられるようにするため、先生が指示せず、「いつでも相談していい」「分からないって言うていいんだ」という風土を、算数以外の授業でも日常的に実践されていることが、視聴した授業動画からも伝わってきました。「どうしてそう思ったの?」という「発想の源を問う」授業を通し、石算研の研究でもある「数学的な見方・考え方を共有させる手立て」につながるご示唆をいただきました。 初めての試みだったため、授業動画の音声聞こえにくいなどの諸問題もありました。しかし、これまでの部会員の声「道外の先生方の授業が見たい」という希望に一定程度応えられたのではないかと思います。
		【加固先生によるご講演】 参加者との質疑応答では、課題の出し方や、焦点化について、ノートの使い方がタブレットに変わってきたこと、算数科における深い学びなどについて、ざっくばらんにお答えいただきました。 拡大図と縮図で学習した内容を「他の場面でも使えるか(例えば校舎の高さを求める)」考え、それを「自分で広げられるか」に向けて、知識を構造化させていく(精緻化)ことなど、専門的なことも教えていただきました。 最後に、明治図書オンライン「教育 zine」内に「個別最適な学び」「『数学的な見方・考え方』を重視した個別学習」などのコラムを投稿しているとのことなので、最新の算数科教育について、いつでもチェックすることができます。どうぞ検索してみてください。